外務省
Ministry of Foreign Affairs of Japan

採　用　案　内

[技術系]画像情報分析

国家公務員採用一般職試験（大卒程度）

技術系区分：物理、デジタル・電気・電子、機械

は　じ　め　に

我が国が外交政策を適切に遂行していくためには、刻々と変化する国際情勢に機敏に対応し、重要な情報を選択して的確な情勢判断を行い、政策に反映させていくことが重要です。

外務省では、国際情勢に関する情報の収集・分析業務の一環として、画像情報も活用しています。衛星画像や航空写真によって撮影された画像を分析することで情報を得る手法は「イミント」と呼ばれ、公開情報による「オシント」、人的接触による「ヒューミント」等と並び、重要な情報収集源の一つとされています。画像情報の有用性は、ロシアによるウクライナ侵略を通じて多数の民間衛星画像が公開されたことで、広く一般にも認識されるようになりました。

外務省では、画像情報の分析に従事する職員を募集しています。画像情報に関する経験は不問であり、入省後に研修・実務を通じて習得できます。むしろ、日々変動する国際情勢の動向に関心を持ち、画像情報だけでなく、我が国の外交に関する様々な情報も加味して、多角的な視点から分析業務に従事できる人材を求めています。 画像分析業務を通じて、日本の外交政策に貢献しませんか。

事務次官からのメッセージ

森健良外務事務次官

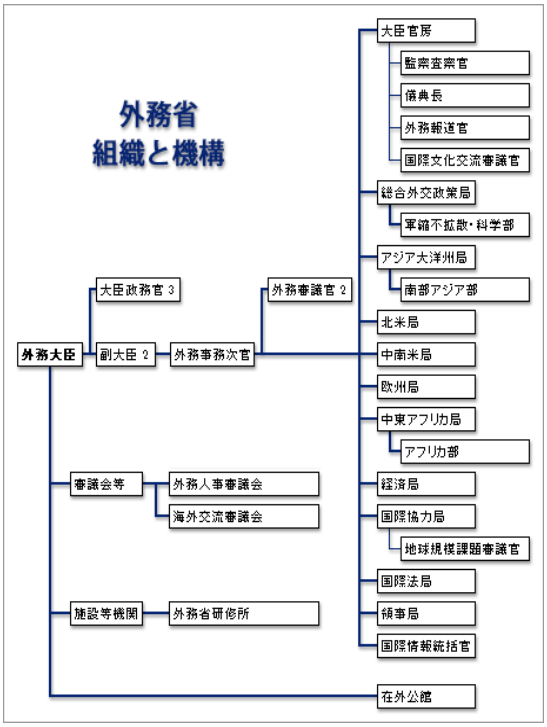
激変する国際情勢の中で、外交を通じて国益を守っていく上で欠かせないのは、正確でタイムリーな情報です。中でも衛星画像をはじめとする画像情報は、「いま、何が起こっているのか」を雄弁に語るものであり、他の情報にはない価値を持っています。

日本政府が初の情報収集衛星を打ち上げてから約 20 年が経過し、国際情勢を理解する上での画像情報の役割は、外務省でもすっかり定着してきました。私も、画像分析官の皆さんから情勢報告を受け、日々の政策立案に役立てています。

私は事務次官に就任してから、外務省のデジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）と「外交のプロ集団の育成」を、車の両輪として全力で進めてきました。人口減少社会にあって、これからは外交業務も、自動化できることは自動化し、人間は人間にしかできない付加価値の創造に集中していかなければなりません。

その意味で、複合的な情報・専門的な知見を基に画像情報を読み解く画像分析官の皆さんは、まさに機械や他の人には出せない付加価値を作り出す「プロ集団」です。意欲ある皆さんが画像分析官として、日本の外交を支える「価値」を作り出してくれることを、心から期待しています。

外務省の組織



外務本省は、大臣官房のほか 10 局 3 部より成り立っており、約 2,900 人の職員が働いています。大臣官房及び全省的なとりまとめを行う事務局の総合外交政策局を除く局は、地域別の 5 つの地域局と事項別の 4 つの機能局に分かれており、また情報収集分析を行う国際情報統括官が置かれています。在外公館には、大使館、総領事館、政府代表部があり、これらの在外公館には、全部で約 3,600 名の職員が働いています。

国際情報統括官組織の業務

採用後に配属される国際情報統括官組織は、以下の業務を通して、変動する国際情勢を分析し、外交政策の立案を支えるための業務を担当しています。

・国際情勢に関する情報の収集・分析、外国及び国際機関等に関する調査
・外務省が収集した情報の総合的な管理
・外務省が行う情報の収集・分析に関する総合的な計画の作成、同計画の実施に関する事務の総括
・外務省が行う調査事務の総合的な管理
・国際情勢に関する情報の収集・分析、外国・国際機関等の調査に関する対外関係事務の総括

画 像 分 析 官 の 業 務

国際情勢に関する情報の収集・分析の一環として、衛星画像によって、我が国の安全保障に関わる情勢を分析することに加え、海外で発生する自然災害や政情不安の状況も衛星画像によって把握し、在留邦人保護に役立てています。

衛星により入手した画像の判読・分析とブリーフィング（報告）が、画像分析官の主な業務となります。普段から衛星画像や公開情報を収集し、海外の２００を超える大使館などの在外公館からの情報とあわせて情勢を分析し、外交政策上の的確な判断を行う上で必要となる質の高い分析情報を外務省幹部にブリーフィングしています。

①画像判読

撮影された画像に写っている対象物・環境の判読をすること

例：地形、航空機・艦船・戦車等の種別、構造物の形状

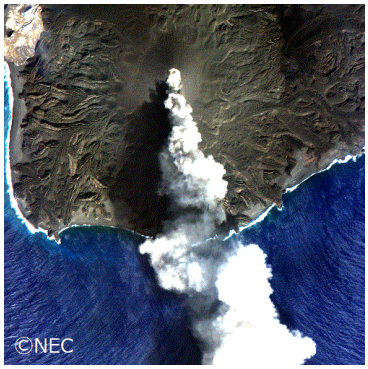
②画像分析

画像判読において明らかになったものや、その他情報を含め、何が行われているのか、対象の意図等を分析すること

③ブリーフィング

①～②の結果を、外務省の幹部及び政策部局へ報告し、外交政策の策定のための判断材料を提供すること

画 像 分 析 官 の 活 躍 例 （イメージ）



活躍例１

Ａ国で自然災害が発生。通信手段が不通になり、邦人が住む離島の被害状況がわからない中、衛星画像を活用して状況を確認。本省の担当部局に離島の被害状況をブリーフィングし、邦人の安否確認の情報を提供。

活躍例２

紛争発生国Ｂにおいて、武装勢力が首都へ進む動きを見せる。現地の大使館からの情報の補足として、Ｂ国における武装勢力の進出状況を衛星画像を通じ分析。関係部局に情報を提供。

先輩職員からのメッセージ①

Aさん
（入省２年目職員･男性）

１日のスケジュール例

9:00	出勤
9:40	資料の準備・作成
11:30	局内担当官への報告
12:30	昼休憩
13:50	関係者との業務連絡
16:00	文書・物品管理
17:00	他部局への報告
18:00	局内への臨時報告 担当地域の情報収集
19:30	退庁

私は入省して１年ほどは総務班業務を支援し、省内業務の基本を肌で学びました。その後衛星画像業務の担当に配属となり、画像分析官の業務に従事して半年ほどたちました。

画像情報を的確に分析するためには、様々な情報との比較検討が欠かせません。外務省には在外公館から様々な情報が送られてきますが、これに加えて近年は公開情報の重要性がますます高まっていると思います。後者は庁舎でなくともアクセスできるため、在宅勤務との親和性が高いです。在宅勤務の日は公開情報の収集を行うほか、よりよい報告に資する基礎知識を勉強しています。

私が画像分析業務に携わるようになったのは、ロシアによるウクライナ侵略が始まったさなかでした。この出来事で、衛星画像分析の有効性が広く認識されるようになりました。例えばニュース番組などで衛星画像を使った解説がなされたり、民間の方々が商用衛星画像の分析を行いSNS 等で結果を公表したりしています。これらの解説・分析の結果、当事国による発表の真偽が裏付けられたこともありました。外務省においても、画像分析官への期待は日に日に高まっているのを肌で感じます。

画像は事実を淡々と語り、そこには思わず眼をそむけたくなるような過酷な現実が映っていることもあり得ます。たとえそうであっても、主観を持ち込むことなく、常に客観的な視点から観察することが求められます。分析官がこのように客観性を追い求めてこそ、政策部局は我々の提供するインテリジェンスを政策決定に役立てることができます。

主観を排除すること、ありうる可能性を比較検討すること、評価に必要な情報を収集することなど、画像分析の業務プロセスは科学研究のそれと極めて似ています。この仕事は、専門分野を問わず、学生時代に学問的態度をしっかり身に付けてきた方全員に適性があると考えます。皆さんと一緒に仕事に取り組めることを楽しみにしています。

先輩職員からのメッセージ②

Bさん
（入省23年目職員・男性）

２０００年に外務省に入省しました。当時は衛星画像なるものは一般に普及しておらず、目にすることはありませんでした。在学中はフラーレンと呼ばれる炭素の分子構造の研究をしていましたので、現在私が行っている衛星画像分析業務とは縁もゆかりもない状態でした。

とは言え実際の業務について勉強しつつこなしていると、画像分析業務と学術研究は驚くほど似ています。

インテリジェンス・サイクルと呼ばれる情報分析業務の一連の流れに置き換えてみると、研究テーマ、これが「要求」に当たり、基礎資料、実験データ等の情報を「収集」し、収集した情報である実験データを「評価・分析」し、最後に実験結果をまとめて論文にし「配布」する。そしてまた新たな研究テーマが現れ、新たな「要求」につながります。

特に「画像分析」は理数的な手法を用いることも多く、理数系の研究を行われてきた方に分析業務は向いていると考えています。一般的に「分析業務」は一人前になるのに５年～１０年かかるとも言われていますが、それだけの知識と経験が必要とされています。ただし経験の長さは「評価・分析」の成果に影響しません。経験の長い人が有利ではありますが、より質の高い「評価・分析」を行うには、たとえ先輩に対してであろうと議論する姿勢が必要とされます。当然根拠が必要であり、客観的な視点と思い込みを排除する思考が大事です。

国際情勢は絶えず変化しており、必要とされる情報も変化し、疑問や質問は絶えず出てきます。ここ最近では民間で新たな衛星が引き続き打ち上げられ、さらなる情報収集手段が増え、新たな分析手法も出てきています。今後も分析業務は非常に奥が深くやりがいのある仕事であり続けると思います。また、私の分析が外交政策の一部を担っているという責任を感じています。

外交政策の一端を担う仕事をしてみませんか。みなさんの来訪を心から待っています。

先輩職員からのメッセージ③

Cさん
（入省 19 年目職員･女性）

現在、外務省からの出向という形で内閣衛星情報センターにて、衛星画像の分析業務に携わっています。育児休業を挟んで、内閣衛星情報センターにて勤務した後、家族同伴で在外公館に赴任しました。帰国後は、国際情報統括官組織にて画像分析に携わり、その後、内閣衛星情報センターに再度出向し、現在に至ります。

画像分析は特殊な分野ということもあり日々学ぶことが多いですが、実務や研修を通じて、知識を増やし経験を積んでいくことが可能です。ただし、受身の姿勢ではなく、自分から関心を持って、知らないこと、新しいことを積極的に吸収しようとする姿勢が大切です。

画像分析業務は、基本的には自分のペースで業務を進めることが可能なため、仕事と生活の両立がしやすい職場環境であると考えますが、突発的な事案が発生した際には、業務量が増え多忙を極めることもあります。私の場合は、子どもが就学するまで育児時間を取得し、時間短縮勤務ができたお陰で、ワーク・ライフバランスを実現することができました。

みなさんも、日々刻々と変化する国際情勢に「空からの目」を通じてアプローチし、我が国の外交政策の一翼を担う業務に携わってみませんか。

採 用 Q＆A

―外務省には職員寮や宿舎はありますか？

国内には公務員宿舎として独身寮と家族寮があります。宿舎は同僚がたくさん入居しているので新人職員、特に地方出身者にとってはとても心強いと思います。また、民間賃貸住宅に住居する職員には、条件を満たしていれば住居手当（月額最高２.８万円）が支給されます。

―女性の活躍の場はありますか？

もちろんです。

性別によって業務が区別されることは一切ありません。外務省は女性職員の数も多く、職場はとても開かれた雰囲気があります。

―応募に当たり専門知識は必要ですか？

入省後、研修の機会があるので、入省時に画像情報分析について詳細な知識を有している必要はありません。むしろ、データ等に基づく客観的思考ができ、語学を含め新しい分野に挑む向上心があり、世界の情勢に関心をもっていることを重視して採用します。

―在外公館勤務はありますか？

入省後、本人の希望及び適性を考慮し、在外公館勤務の道も開けています。政府のその他機関での仕事の機会もあります。

―ワーク･ライフバランスは確保できますか？

外務省では、ワーク・ライフバランスの実現のため、業務効率化・デジタル化、勤務時間管理の徹底と勤務時間管理のシステム化、マネジメント改革、仕事と生活の両立支援等の働き方改革を推進しています。フレックスタイム制、テレワーク、各種子育て支援等の充実化にも努めています。

―画像分析業務で身につくスキルはどのようなものがありますか？

画像分析の技術の習得､向上のための研修に加え､分析結果の幹部へ報告の機会を通じ､プレゼンテーション能力の向上を図ることができます。入省後、英語などの語学研修も本省において受講でき、語学力の強化も図れます。

〒100-8919 東京都千代田区霞が関2丁目2−1
外務省国際情報統括官組織採用担当
メールアドレス：jouhou-saiyou@mofa.go.jp
電話 03-5501-8000（内線 5318, 3136）